

えがおになれるお手つだい

小三

ぼくが生まれる前の年に、すごく大きな地しんがあり、とてもたくさんの方がひがいにあったという話をお父さんとお母さんから聞きました。

ぼくは一年生の時から、しんさいでひがいにあった福島県をしんしていきる人たちのお手つだいに行っています。毎月十一日に、福島県のいろいろな所に、福島県や東京都や新がた県などから人が集まって、話をしたり歌ったり、ワークショップに参加したり、福島県のおいしい物を食べたりして過ごします。夜はメッセージを書いたたぐさんのキャンドルに火をともしま

す。とてもきれいです。

福島県の人たちの中には、つ波のひがいだけでなく、原発によるひがいで今もまだ自分の住んでいた場所に帰れない人や、いじめやさべつにあっている人がいるのです。ぼくは、それを聞いてとても悲しい気持ちになります。そんなことはあってはいけないと思います。

ぼくは、十一日がお休みのおかげに行けないので、たくさんのお手つだいはできないけれど、それでも福島県へ行くと、みんな、

「待ってたよ。また会えてうれしいよ。」

と、えがおで言ってくれます。ぼくは、それがとてもうれしいです。そして、なかよくなつたみんなにまた会えたり、遊べたりしてとても楽しいで

す。福島の人たちが作ってくれる料理を食べて、

「おいしい。」

と言うと、

「ありがとう。」

と、福島県の人たちもえがおで言ってくれます。

福島県をしえんしている人たちは、しんさいがあつたときからずっと九年間も活動しているそうです。福島県だけでなく、新がた県やくま本県の地しんのときも、千葉県や長野県が去年の台風でひがいにあつたときも行っています。

ぼくも、長野県のりんご畑のどろ出しの手つだいに行きました。りんごの木のみわりのどろをスコップでほると、かたくて重くて、すぐにうでがつかれてきます。ぼくは、どろだらけに

なつてしまいました。でも、りんご園の人たちに、

「きれいにしてくれてありがとう。」

と言われて、ぼくは思わずえがおになりました。そして、「大へんだつたけれどお手つだいができてよかつた。」

と思ひました。一人では、ほんの少しのお手つだいにしかならないけれど、

それでもぼくは、自分もえがおになれるお手つだいをこれからも続けていき

たいと思ひています。そして、

「こまつたときはおたがい様だよ。」

と言つて、えがおで作業しているみんなのように、ぼくもこまつている人が

いたときには、自分で何ができるのかを考へて行動できるようになりたいた

と思ひます。そして、こまつたときに

は、おたがいに助け合える友だちをた

くさん作つていきたいです。